

小児神経外来

■ てんかん

当科では約 200 名のてんかん患者さんを診療しています。発作の始まりが脳の一部から起こる場合は焦点発作、脳の全体から起こる場合は全般発作とされ、前者が起こるてんかんを局在関連性てんかん、後者が起こるてんかんを全般てんかんと呼びます。

診断の上で重要なのは脳波検査です。年間 300-400 件の検査を行っています。通常の脳波検査では明らかな異常がない場合、抗てんかん薬の効き目が十分でない場合、てんかん発作中の脳波を確かめる必要がある場合は、ビデオ脳波同時記録を入院で行っています。ビデオ脳波同時記録は、2011-2018 年で 60 件実施しました。

発作型・てんかん症候群に応じて抗てんかん薬による治療を行っています。基本的に、2 回以上発作のあった患者さんを対象に、治療を開始しています。適切な治療期間は、「発作がない期間が長く続けば、発作は起こりにくくなる」という考え方に基づいており、年余にわたって必要となります。局在関連性てんかんでは 3 年以上、全般てんかんでは 5 年以上、発作がなく、かつ脳波が改善している場合に薬剤の減量・中止を考慮します。治療中に内服をさぼって発作が起こった場合は、最初からやりなおしですから、指示に従ってきちんと内服することが大切です。

■ 発達遅滞

発達に問題のある子どもさんの診療を行っています。必要に応じて頭部 CT・MRI といった画像検査行ったり、血液検査を行ったりして原因検索の一助にしています。

主に運動発達に問題があり療育が必要な場合は、神戸市総合療育センターなどへ紹介しています。主に言語発達に問題のある場合は当院で言語療法を行っています。